

### WHO Covid-19 Research Database の紹介と活動

#### ーパンデミック禍でのコロナ関連情報サービスー

眞喜志まり（東邦大学 習志野メディアセンター）、黒沢俊典、松田真美（医学中央雑誌刊行会）

Q1. 研究者の反応はあるか？

A1. 今のところないが、研究者が Twitter で「論文が掲載された」と書いていたのを見つけたときは嬉しかった。

Q2. まさにライブラリアンの力量発揮のお姿に感銘を受けました。情報は必要なときに得られて生きるものであること本日の特別講演でもふれられた通りですね！ありがとうございました。

A2. ありがとうございます。

Q3. 文献を収集する上で、言語についてのこだわりはあるか。

A3. 良い論文でも日本語であるために海外の人の目に留まらないので、英語の方が多くなる。

[補足回答]

言語について特にこだわりはない。日本語、母国語で発表できることも大切だと考える。しかし、(当日の発表では時間の都合上飛ばしたが) スライド 18 番にあるように海外で SR のような研究をする際、日本語含め英語以外の言語で発表された研究は軽視されがちで、そのバイアスも指摘されている。

とはいえ、やはり英語が世界標準なのも現実なので、日本語の研究情報をタイトル情報だけでも英語で提供すること、WHO Covid-19 DB のようなグローバルな DB にインデクシングしてもらえることで目にとめてもらえる機会 (Findability) の向上につながればと思い、続けてきた。